

埼玉県作業療法士会 広報誌

彩り

秋号

2025年度



● 第34回埼玉県作業療法学会レポート in 埼玉県立大学

No.21

— 作業療法に関わる全ての人たちの魅力を伝える情報誌 —

# 第34回

# 埼玉県作業療法学会レポート

in 埼玉県立大学



2025年6月29日(日)、最高気温35度の猛暑日の中、埼玉県立大学にて、第34回埼玉県作業療法学会が開催されました！

参加者は過去最高の280名、県学会初の試みである子連れ参加、一般演題は32演題のすべてがポスター発表の形式でした。

学会のテーマは『対象者のために、私のために、今日がわたしの分岐点』でした。基調講演では日本作業療法士協会会長 山本伸一先生、石川県立こころの病院 村井千賀先生に講演していただき、明日からの臨床にすぐに役に立ったり、自身の作業療法士像を見つめなおすきっかけになるような大変貴重な講義をしていただきました。



今回は、初めての学会に参加したOT1年目の方に感想をいただきました！



- 9:30～ 開会式
- 9:35～ 学会長講演  
「MTDLPのこれまでの10年とこれからの10年」
- 10:10～ 基調講演Ⅰ：山本伸一氏  
「今後の作業療法士に必要なこと  
—私たちだからできること—」
- 11:20～ 一般演題(ポスター発表)
- 12:20～ 昼食
- 13:10～ 領域セミナー  
〈身体障害領域〉山本伸一氏  
〈精神障害領域〉村井千賀氏  
〈発達障害領域〉神作一実氏
- 14:50～ 基調講演Ⅱ：村井千賀氏  
「地域包括ケアシステムと作業療法」
- 15:50～ 表彰式・閉会式

## 第34回埼玉県作業療法学会 学会長コメント

リハビリテーション天草病院  
高橋 啓吾

本学会は、過去最多となる280名の参加者を迎え、また32題の演題発表が行われ、例年にも増して活発な議論が展開されましたことを、大変嬉しく思っております。今回は新たな試みとして、子ども同伴での参加を可能とし、多くの子育て世代の方々にもご参加いただきました。学会の場がより開かれたものとなり、世代を超えた交流のきっかけにもなったことを、心より嬉しく感じております。



▲左から学会支援委員会小池さん、高橋学会長

ご講演いただきました山本伸一先生(日本作業療法士協会会長)、村井千賀先生(日本作業療法士協会理事)、神作一実先生(文京学院大学教授)に、厚く御礼申し上げます。また、開催にご尽力いただいたすべてのスタッフの皆様にも、深く感謝申し上げます。

本学会を通じて、臨床現場と学術研究との架け橋となるような知見が数多く共有され、今後の作業療法の発展に向けた新たな可能性を強く感じております。参加者アンケートでは、満足度4.59/5という高い評価をいただき、学術的・運営的な両面において一定の成果を得られたことを実感しております。

今後も、実践と理論の融合を図りながら、誰もが参加しやすく、学びの深い学会となることを支援してまいります。そして、患者様・利用者様に、より質の高い作業療法が提供されることを心より願っております。

本学会にご参加いただいた皆様、そして運営を支えてくださったスタッフの皆様にも、改めて深謝申し上げます。誠にありがとうございました。



▲開会のあいさつ



▲学会長講演

山本 伸一

令和7年6月29日(日)、「第34回埼玉県作業療法学会(埼玉県立大学)」に参加させていただきました。テーマは「対象者のために、自分のために、今日が私の分岐点」。大会長は、リハビリテーション天草病院の高橋啓吾先生。大会長や運営スタッフの思いがたくさん詰まった大会です。それを身体全体で感じ取ることが出来ました。皆さんもそうだったのではないのでしょうか。

私は、基調講演として「今後の作業療法士に必要なこと」、領域別セミナーでは「脳卒中に対する臨床四肢機能アプローチ」をテーマに、要職として一臨床家として、話をさせていただきました。本当にありがとうございます。すべての時間帯が熱気で溢れていました。埼玉県作業療法士会の皆様の印象ですが、とても元気！若いエネルギーがはち切れそう。私自身、圧倒されました。「作業療法士の仲間だからこそ、この一体感はすごい。みんなでやれる、これからも頑張れる。」そう思いました。作業療法士だから「わかる」。作業療法士だからこそ「できる」。みんなで未来を創りましょう。

埼玉県作業療法士会の宇田英幸会長はじめ、本学会の高橋啓吾学会長、運営に携わった皆さま、ありがとうございました。本当にお世話になりました。これからも宜しくお願いいたします。また会いましょうね。



▲左から山本協会長、宇田会長



▲講演中の実技の様子

宇田 英幸

素晴らしい学会だった。県学会は我々家族のつどいであると毎回話しているが、今回遂にお子様連れ企画が実現して名実ともに夢が叶った。

日本作業療法士協会から山本伸一協会長、村井千賀常任理事、そして今年度から協働をはじめた川越少年刑務所からは、北川統之所長、二宮廉高次席矯正処遇官ほか、刑務官、福祉専門官といった方々にもお越しいただいた。さらに、当事者を含む一般の方々にも門戸が開放されたことにはその嬉しさを表現する言葉が見当たらないほどであった。

誰でもどこからでも作業療法に興味のある人たちが訪れ、水平に気さくに対話できる場が埼玉県作業療法士会にはある。今回唯一の心残りは私自身がコロナ明けで意識朦朧としていたことであるのだが、体調さえ万全ならば埼玉県作業療法学会は世界一有意義な学会であると断言しよう。

来年は子どもたちとのジャンケンに会長賞を用意して臨む。

## 一般演題（ポスター発表）の様子

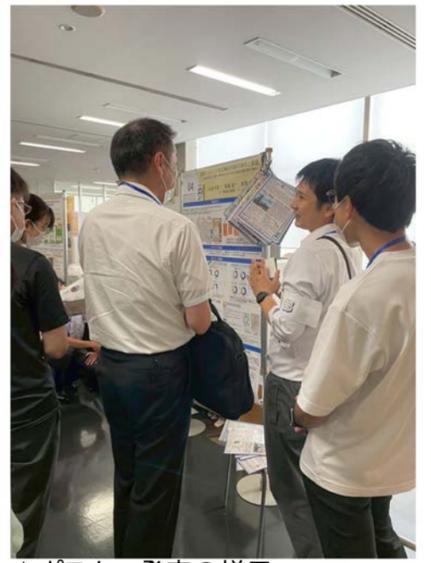


▲ポスター発表会場

演題数は32題でした。普段の職場での取り組みや成果などを、皆さん思い思いに発表されていました。発表形式がポスター形式だったことにより、発表者と質問者の距離感が非常に近く、どの場面でも有意義で活発なディスカッションが行われていました。一般演題の発表時間内ギリギリまで会場内は人であふれて盛り上がっていました！

### 新人OT感想

発表者含めて、似た状況の参加者が積極的に意見交換をしていて、職場以外の同じ悩みを持つ方々からアドバイスを貰える貴重な交流の場だと感じました。



▲ポスター発表の様子



▲最優秀賞受賞時のあいさつ

### 最優秀賞受賞者のコメント

埼玉県総合リハビリテーションセンター  
小林 唯

この度は、最優秀賞という身に余る賞を頂き、誠にありがとうございます。驚きや嬉しさと同時に背筋の伸びる思いです。なにより日々、ご指導いただいた先生方、私を成長させてくれた患者様に心より感謝申し上げます。演題発表は全てが初めてのことで、抄録の文字数制限とポスター作成に追われ、大変なことを始めてしまったと何度も心が折れそうになりました。しかしその度に、愛を持って優しく時に厳しく先生方にご指導頂き、共に戦う同期に喝をいれてもらい、なんと受賞まですることができました。受賞後は達成感と安堵が混ざり合い特別な高揚感でした。この経験が私の作業療法士人生の礎となり、対象者のためになるのだと確信しました。そしてまさに今日が私の分岐点であり、確実な一歩だったと思います。この受賞を契機とし、今後も実践、研究に励んでいく所存です。この度は本当にありがとうございました。



▲左から高橋学会長、最優秀賞受賞の小林さん

# 作品展示スペース 『NO SAGYO . NO LIFE ～みんなの作品展示会～』

埼玉県作業療法士会唯一の精神科領域の委員会である「こころとくらしの地域支援推進委員会(以下、こころ委員会)の主催の作品展示イベントが、今年度も埼玉県作業療法学会で開催されました。

作品展示数は圧巻の約100点！作者の方々の思いのこもった作品の数々に心を打たれました！

こちらで作品の一部をご紹介します。他の作品や作者のメッセージなど詳しくご覧になりたい方は、下記の二次元コードの「こころ委員会」のページをご覧ください。



## 新人OT感想

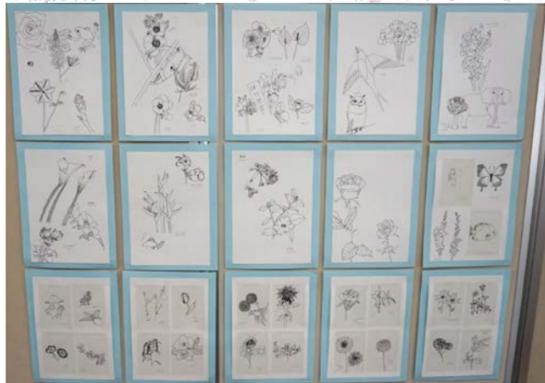
3Dプリンターの活用例を見学しました。また、こころ展示からは患者がなかなか表に出せない胸の内が伝わってきて、「作業」の大切さを改めて実感しました。



▲Delicious・Cute・LOVE  
～みんなの好きなものを集めました～



▲季節のときめき



▲Garden



▲染まる紫陽花



▲崎陽軒おひなさま



▲獅子舞



▲3Dプリンタ



▲3Dプリンタで作成した作品

## こころとくらしの地域支援推進委員会 委員長コメント

狭山ヶ丘病院 原 裕如

今年も作業に込められた力や意味をあらためて見つめ直す機会となった『NO SAGYO.NO LIFE～みんなの作品展示会～』

会場には100点を超える作品が並び、参加者の皆さんから寄せられた170通のメッセージカードには、作品へのあたたかなまなざしや応援の言葉があふれていました。作品の前で足を止め、じっくりと見入る来場者の姿が多く見られ、会場はやさしい空気に包まれていました。

また今回は、川越少年刑務所の受刑者による作品展示も行い、所長をはじめとした職員の方々にもお越しいただき、刑務所や刑務作業の様子、作業療法の様子について、直接お話をさせていただく貴重な機会ともなりました。

『NO SAGYO, NO LIFE.』原点回帰の思いを胸に、また来年、皆様と作品を囲めることを願っています。



▲こころ委員会の活動の様子はこちら♪

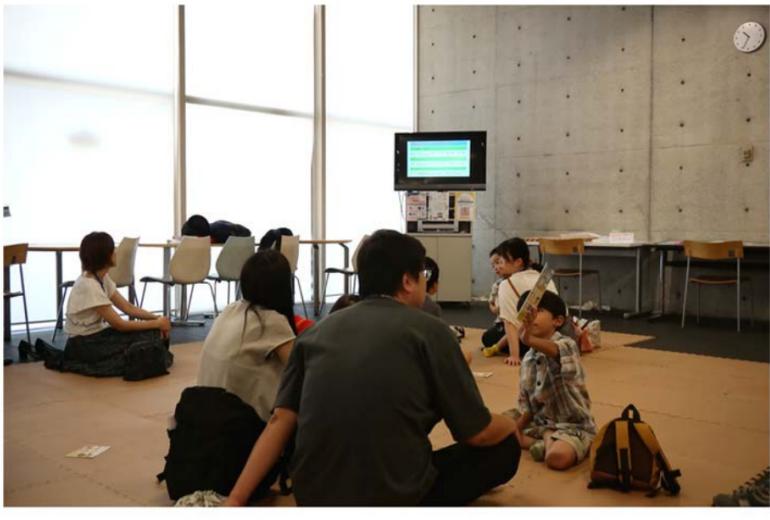


▲左から宇田会長、原委員長、川越少年刑務所次席矯正処遇官 二宮様、川越少年刑務所所長 北川様、山本協会長



▲川越少年刑務所の作業療法

# 子ども参加スペース・イベント

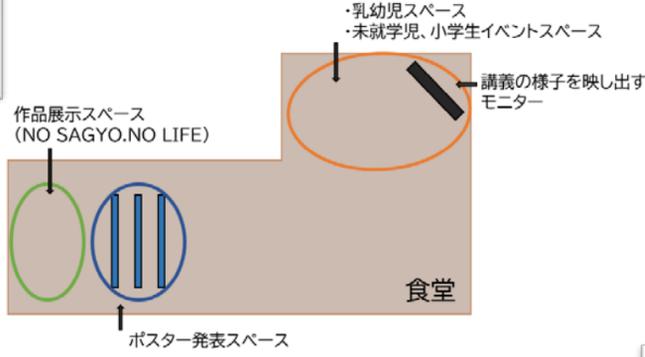


埼玉県作業療法学会、初の試みである子ども参加スペースでは、多くのお子さんが、作業療法士のおとうさん、おかあさんとともに参加していました！  
 お子さんたちは、フロアマットの上で用意されていた絵本を読んだり折り紙をしたり、ホワイトボードでお絵描きをしたり、NPO法人スコップさんとともにボードゲームをしながら、それぞれ楽しそうに思い思いの時間を過ごしていました！また、講義の合間には山本協会長や宇田会長に積極的に声をかけ、楽しそうにじゃんけんラリーをしており、盛り上がっていました！  
 親御さんたちは、壁に設置されたモニターで講堂の講義を聞きながら、子どもさんのお世話をしており、有意義な時間を過ごしていたように思います。

子連れ参加スペースが、メインの会場である講堂に最も近い食堂に開設されており、且つ、ポスター発表、作品展示スペースと同会場であったことで、移動しやすい動線となっていました。

## 子連れ参加者感想

小さな子どもが2人いたので、別会場にいらながらも学会に参加することができ、とてもよかったです！  
 途中、子どもが後ろの方で遊び始めたため、食堂のモニターがもう少し大きいと見やすいなあと思いました。



## 新人OT感想

子どもたちの笑い声やはしゃいでいる声など聞こえてきてとても賑やかでした。  
 保護者の方も子どもたちを見守りつつ配信されている講演に耳を傾けている様でした。



## じゃんけんラリー



▲じゃんけんによってシールを集めると景品がもらえました♪

## NPO法人スコップによる『ほっこり教室』



▲ホワイトボードにお絵描きをしたりボードゲームで遊びました♪

## 来年度 埼玉県作業療法学会のご案内

**第35回 埼玉県作業療法学会**  
 THE 35TH CONFERENCE OF SAITAMA ASSOCIATION OCCUPATIONAL THERAPY

**「作業療法の魅力**  
 ～広めよう、伝えよう、私たちの仕事～」

会期：2026年7月12日(日)  
 会場：目白大学  
 会長：花房 謙一

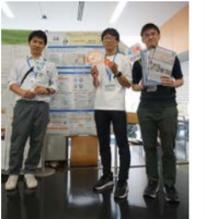
みなさまのご参加、お待ちしております♪

### 第35回埼玉県作業療法学会 学会長コメント 花房 謙一

第35回のテーマは、「作業療法の魅力～広めよう、伝えよう、私たちの仕事～」です。作業療法が上手く説明できない、理解されない、知られていない、といったことに対して、作業療法の魅力の見つけ方、伝え方、広め方について多くのヒントが得られる企画を用意しております。コンセプトは、  
 ①埼玉県で勤務する作業療法士のための身近な学会！  
 ②県内の高校生を公開講座へ招待！  
 ③学会発表が初めての方や子連れ参加大歓迎の仕組み！です。

### 新人OT感想 (全体を通して)

「学会」ということで初めは緊張していましたが、自由度や子どもたちの賑やかさから緊張も解け、後半は楽しめました。  
 当初思っていたより参加のハードルは低かったです。  
 次回も参加したいです！



広報誌『彩り』への掲載&取材依頼絶賛募集中！

お問い合わせ先  
 saitama.ot.kouhou@gmail.com



Follow me!!

オススメ!

チェック  
してね!

# 公式 SNS

## やっています

研修会情報やブロック活動など最新情報をいち早く発信します!



@ot\_saitama



@sai\_otCE



埼玉県作業療法士会



埼玉県作業療法士会 ホームページ